

第6学年 国語科学習指導案

令和3年9月24日（金）

- 1 単元名・教材名 表現の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう
『鳥獣戯画』を読む 「日本文化を発信しよう」
- 2 児童の実態と本単元の意図

（1）児童の実態

本学級の児童に、国語に関する実態調査を実施したところ、以下のような結果が出た。

（調査日7月15日）

1	国語の学習は楽しいですか。
	・楽しい（人） ・どちらかといえば楽しい（人）・どちらかといえば楽しくない（人） ・楽しくない（人）
2	国語の楽しい（楽しくない）と思うときはどんなときですか。
	・楽しい…筆者の意図を見つける、文章の下書きや清書をしているときや作文、みんなに自分の考えを話しているとき、漢字の学習、単元の振り返り、自分の考えが見つかったとき ・楽しくない…文章を書くとき、物語を読み取るとき、話し合いをするとき、漢字の学習
3	国語の学習で好きなものはどれですか。
	・読む（人）・書く（人）・話す（人）・言葉（人） 〈理由〉 ・読む…読書に興味があるから、読む力がつくから、新しい漢字を覚えられるから ・書く…自分で考えて思っていることを書けるから、自分の思ったことを文章に書くのが得意だから、調べたことや考えを詳しく書くことができるから ・話す…自分の考えをみんなに知ってもらえるのと、みんなの考えを知ることができるから、考えを共有するのが楽しいから、自分がどれだけ言葉を使っているか感じられるから ・言葉…新しい漢字や言葉を覚えられるから、言葉の使い方が分かるとうれしいから
4	国語の学習で苦手なものはどれですか。
	・言葉（人）・話す（人）・書く（人）・読む（人） 〈理由〉 ・言葉…主語・述語・修飾語等を見つけるのが苦手だから、言葉の使い方が苦手だから、漢字が苦手だから、言葉の意味などを覚えられないから ・話す…うまく発言できないから、自分の考えを伝えるのが苦手だから、自分の考えをどう伝えていいかわからないから、聞く時に大事なことを聞き落としてしまうから ・書く…思っていることはあるけどそれをうまく表現することができないから、何をどうやって書けばいいのかわからないから、言葉（語彙）が思いつかないから ・読む…長い文章を読むのが苦手だから、物語で登場人物の心情がうまく読み取れないから、文章をすらすら読めないから、本を読むのが嫌いだから
5	国語の学習で伸ばしたいと思う（できるようになりたい）ものはどれですか。
	・書く力（人）・話す力（人）・言葉の力（人）・読む力（人） 〈理由〉 ・書く…自分の思っていることを文章で伝えられるようになりたいから、宿題などの作文を書くのに時間がかかるから、書くのが苦手だから得意になりたい、まとめる時に役に立つから ・話す…しっかりと話が聞けるようになりたいから、生活の中で必要だから、みんなの前で話すのが苦手だから、考えを伝えられるようになりたいから、一番苦手だから ・言葉…人に伝わるようにしたいから、漢字は覚えたほうが役に立つから、漢字が苦手だから、文章を書く時に（漢字などを）使うから、誤解を与えない使い方をしたいから ・読む…生活の中で大切だから、文章をすらすら読みたいから、苦手だから

6	<p>国語の学習で生活に必要なと思うものはどれですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す（人）・言葉（人）・書く（人）・読む（人） （理由） ・話す…自分の意見を言うのは大切だから、話を聞ける（理解できる）ようにならないと行動できないから、相手の伝えたいことを聞き落とさないようにすることは生活の中で大切だから ・言葉…話す力があっても言葉が間違っていたら自分の考えを伝えられないから、相手に伝えるために必要だから、これからの生活や将来で必要だから ・書く…書くことは将来も絶対使うから ・読む…これからも必要だから
7	<p>本を読むことは好きですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好き（人）・どちらかというとき好き（人）・どちらかというとき嫌い（人）・嫌い（人）
8	<p>文章を書くときに自分にあてはまるものはどれですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好き（人）・どちらかというとき好き（人）・どちらかというとき嫌い（人）・嫌い（人） ・書ける（人）・どちらかというとき書ける（人）・どちらかというとき書けない（人）・書けない（人）
9	<p>作文を書いていることで授業などで生かされたのはどんな場面ですか。</p> <p>（すらすら書けた）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の魅力を伝えるとき・感想・文章の清書・提案文・授業の振り返りや単元の振り返り（文量が増えた） ・感想をたくさん書けた （内容の変化）・原稿を皆に伝えられるように書けた・自分の気持ちが素直に書けるようになった ・体験や経験を入れて書くことができるようになった （作文などの場面で） ・題名がつけやすくなった
10	<p>作文を書くときに気をつけていること、工夫していること、意識していることはどんなことですか。</p> <p>（構想）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書く前に先にある程度書くことを決める・自分の伝えたいことをはっきりさせる （題名） ・みんなを引きつける題名をつけること （形式・言葉） ・段落（一字下げなど）を間違えないように確認する・作文用紙の使い方（句読点やかぎなど） ・句読点の位置・習った漢字を使う、字を丁寧に書くこと、文体（ですます、である、敬語など） ・適切な言葉を選んで書くこと （文量） ・決まった文字数を意識して書くこと （思いや考え） ・自分の思っていることを伝えられるようにすること・自分の考えを入れるように書くこと ・自分の考えを素直に書くこと・自分の考えを正確に書くこと・自分の経験や相手の行動、会話を入れて書くこと・理由の書き方「～だからです」や理由を書くこと・事実だけでなく考えを入れること （まとめ） ・4月に書き始めたころはまとまりがなかったけどまとめながら書くように意識した （推敲・読み直し） ・内容が書けているか読みなおすこと （基本の時間） ・友だちの作文を見て、段落や会話文を入れて工夫して書くようになった

本学級の児童は、国語の学習について6割の児童が「楽しい（「どちらかといえば楽しい」も含む）」

と答えている。読書が好きと答えた児童も6割以上であった。「読むこと」や「書くこと」が好きな児童は合わせて6割程度いた一方で、「読むこと」または「書くこと」が苦手だと答えた児童も3割程度いた。昨年度の学力テスト（教研式 CRT）の結果では、「指定の量で書く」「問題点を挙げる」「解決策を書く」の内容において、無回答率が高かった。自分の考えを文章で伝えたい、伝わりとうれしいという思いはあるが、文章から必要な情報や工夫を見つけたり、それを生かして文章を書いたりする力は不十分であると考えられる。

また、6年生となり、書くことの実態把握と、書く活動への抵抗を少なくし意欲的に取り組めるようにするために、週に2回宿題として350字から400字程度の短作文を書いている。1学期は作文用紙の使い方や文字数を意識するためマスを、2学期からは行を使用し書くようにしたり、難易度別のテーマ集を配付したり、3観点の自己評価では国語の学習と関連させて観点を変えたりするなど、スモールステップで取り組んでいる。短作文は9月現在までに24回行った。それに関するアンケートが⑨、⑩である。回数を重ねていくうちに工夫が見られ、構想を考えてから書くことや、マスの形式に合わせた書き方、漢字、敬語などの言葉の使い方、マスに合った文字数で書くことについてはほとんどの児童が意識して取り組んでいる。基本の時間では、友だちの作文を読み合う活動を取り入れたことで、自分の体験や経験、会話などを入れて書くことや、題名を工夫するなど、読む人を意識して書くことにも留意する児童も増えてきた。

第6学年となり、「読むこと」の学習では、「時計の時間と心の時間」で、筆者の考えを読み取るために、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、筆者の主張と、それを支える事例の関係をとらえたりする学習に取り組んだ。図表に関係のある文を選ぶことはできたが、筆者の主張とそれを支える事例の工夫に気付くことが難しかった。

また、「書くこと」の学習では、「わたしたちにできること」で提案文を書く学習において、文章で表すことや構成を考えることにつまずきがあり、書くことへの苦手意識から、学習に取り組みにくい児童の姿も見られた。

本単元では、『鳥獣戯画』を読む』を筆者の表現の工夫を捉えて読み、そこで学んだ表現の工夫を活用して、図書館等を利用して日本文化について調べたことをパンフレットに書く力を高めていく。以後、3学期の「メディアと人間社会／大切な人と深くつながるために」で論の展開や表現のしかたに着目して複数の文章を読み、考えを交流することにつながられるように指導を行っていく。

（2）本単元の意図

本単元は、学習指導要領において、以下の指導事項を受けて設定されている。

【知識及び技能】

（3）オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくこと。

【思考力、判断力、表現力等】

- B（1）イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
B（1）エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
C（1）ウ 目的に応じて、文章や図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。

本単元では、「表現の工夫をとらえて読み、それを生かして日本文化のパンフレットを書こう」という言語活動を設定し、児童の興味・関心を高め、意欲的に取り組むことができるようにする。

第一次では、扉のページを生かして、読む・調べる・書くという複合的な単元全体の見通しをもたせるとともに、教師作成の浮世絵のパンフレットをモデルとして提示しながら相手意識と目的意識も喚起できるようにし、単元のゴールを意識させる。また、廊下に春日部のパンフレットを複数掲示してその工夫にも触れることで、パンフレットのイメージを持たせていく。日本文化についてはイメージマップで視覚化することで日本文化のイメージを共有し興味・関心を高めていく。日本文化を調べるにあたっては、市立図書館を活用し、児童がすぐに本を手にとれるようにし、自分で選んだ本の表現の工夫についても『鳥獣戯画』を読む』で学習したことを生かして、筆者（著者）

の表現の工夫に気付かせ、パンフレットに生かせるようにする。

『鳥獣戯画』を読む』は、12世紀末に生み出された「鳥獣人物戯画」の一場面について、高畑勲氏がアニメーション監督の視点で書いている説明的文章である。第9段落に筆者の主張がある尾括型の文章という捉え方をしているが、第1段落から第4段落が初めとなる総括型の文章であるともいえる。第二次では『鳥獣戯画』を読む』を読み、絵と文章とを対照して、筆者が何に着目し、それをどのように評価しているのか、筆者のものの見方や考え方、そして論の進め方を捉えて読んでいく。記述の特徴として、全体について着目しているところや、部分に着目して詳しく説明しているところがあること、筆者の絵の正確な観察をもとに、絵の事実と感想・意見とを繰り返し述べていることが挙げられ、それを分かりやすく伝えるための書き出しや文末の表現の工夫、体言止めや比喩表現など、読者を引き込む表現の工夫の効果についても学ぶことができる。見つけた工夫と効果を生かしてパンフレットを書くという単元のゴールに向けて、『鳥獣戯画』を読む』で筆者の表現の工夫と効果を、付箋（赤）「論の展開」、付箋（黄色）「表現の工夫」、付箋（青）に「絵の示し方の工夫」の3つを観点として見つけ、まずは赤、青、黄のグループに分かれて話し合い（話し合い①）一つの観点について深め、次に赤・青・黄一人ずつ3人（または4人）のグループで話し合い（話し合い②）視点を広げることで、考えを広げたり深めたりしていく。

第三次では、第二次で見つけた工夫と効果と、自分が選んだ日本文化について調べる本を読んで見つけた工夫と効果も生かしてパンフレットに表現させていく。単元全体のめあてとして「書くこと」を設定することで、第二次で児童は読み手としてだけでなく書き手の立場も意識して読ませ、絵や写真の使い方、豊かな表現などを活用できるように整理させていく。

3 研究主題との関わり

「確かな読解力と豊かな表現力の育成」（国語科を中心に）
～未来社会を生き抜く資質・能力の形成～

(1) 目指す児童像

文章を的確に読み取り、自分の考えを形成する力			
低学年	中学年	高学年	たんぼぼ・ひまわり学級
事柄の順序を中心にして、内容をとらえながら読む子	叙述をもとに、文章の内容を理解できる子	文章を読んで理解し、自分の考えをまとめられる子	書かれている言葉とその言葉の意味が理解できる子
目的や場面に応じて、適切な表現方法で自分の考えを伝える力			
低学年	中学年	高学年	たんぼぼ・ひまわり学級
事柄の順序に沿って、簡単な構成を考えて書く子	相手や目的を意識して、自分の考えを伝えられる子	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げられる子	身近な出来事について、伝えたいことを書こうとする子

(2) 研究主題に迫るための手立て

本校では、「確かな読解力と豊かな表現力の育成」を研究主題に掲げ、国語の研修に取り組んでおり、本年は2年目である。上に示した目指す児童像を実現するために、単元を通して、以下のような手立てを講じていく。

①つけたい力にふさわしい言語活動の設定

- ・単元を貫く言語活動として、日本文化についてのパンフレットを作る活動を位置づける。
- ・第一次では、扉のページを生かして、読む・調べる・書くという複合的な単元全体の見通しをもたせ「表現の工夫をとらえて読み、それを生かして日本文化のパンフレットを書こう」というめあてを設定する。
- ・教師作成の浮世絵のパンフレットをモデルとして提示しながら相手意識と目的意識も喚起できるようにし、単元のゴールを意識させる。
- ・廊下に春日部のパンフレットを複数掲示してその工夫にも触れることで、パンフレットのイメー

ジをもたせる。

- ・第二次では『鳥獣戯画』を読むで「論の展開」、「表現の工夫」「絵の示し方の工夫」の3つを観点として見つけ、2回の話し合いを行い筆者の表現の工夫と効果に気付かせパンフレット作りに生かせるようにする。
- ・日本文化の自分で選んだテーマに合った本の並行読書を行う。『鳥獣戯画』を読むで学習したことを生かして、自分で選んだ本の筆者（著者）の表現の工夫にも気付かせ、パンフレットに生かせるようにする。

②筆者の見方を捉えるための工夫

- ・絵に描かれた様子を説明している文に赤線を引き、その文と対応する絵の部分を赤で囲み、線で結ぶことで、絵と文章を照らし合わせながら読み取ることができるようにする。
- ・筆者の評価が表れている表現に青線を引くことでどんな感じ方や評価をしているかを読み取らせる。
- ・赤や青で色分けすることで絵についての事実とそれをどう評価しているかの関係を読み取れるようにするとともに、児童がスムーズに「論の展開」の工夫をとらえていくことにつなげていく。
- ・絵に描かれた様子を説明している文や筆者の評価が表れている表現についてどのように感じたかを考えさせることによって、児童がスムーズに「表現の工夫」をとらえることにつなげていく。

4 単元の見方

- (1) 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。 (知識及び技能) (3) オ
- (2) 引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (思考力、判断力、表現力等) B (1) エ
- (3) 目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等) C (1) ウ
- (4) 文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しを持ってパンフレットを作ろうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

5 単元で取り上げる言語活動

図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して調べた情報を知らせるパンフレットを作る。(関連：言語活動例ア)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づいている。(3) オ	① 「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 B (1) エ ② 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。 C (1) ウ	① 文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、構成を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しを持ってパンフレットを作ろうとしている。

7 指導と評価の計画 (全11時間扱い)

※第1時の日本文化のテーマが決まった後、2～6時の間に関連図書を並行読書で読み進め、筆者の工夫とその効果について気付いたことを付箋にまとめていく。

次	時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○「鳥獣戯画」の拡大掲示を見て気付いたことを話し合う。 ○単元扉の教材名やリード文を見て、「表現の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう」というめあてをもち、単元のゴールから、言語活動のイメージをもつ。 ○パンフレットのテーマの日本文化にはどんなものがあるかイメージマップをかいてイメージを広げる。 ○教師自作のパンフレットを提示し、作成するパンフレットのイメージをもつ。 ○パンフレットを作るために必要なことを考え、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「鳥獣戯画」の巻物の感じ方 ・筆者高畑勲について ・学習の計画と見通し ・伝える相手(保護者・クラスの児童)と方法(パンフレット) ・パンフレット全体の構成や表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の題名から、絵を「読む」とはどういうことを考えさせたり、単元後半にパンフレットを作ることを提案したりして課題意識をもたせる。 ・日本文化のイメージマップを書くことで、日本文化に興味をもたせ、どのテーマでパンフレットを書きたいか明確にさせる。
第二次	2・3	<ul style="list-style-type: none"> ○今まで学習した説明文を想起させ、説明文とはどんな文章か、説明文の学習でどんなことを学んだか共有する。 ○文と絵を結び付けて照らし合わせながら、筆者がどう「鳥獣戯画」を読んでいるかをとらえる。 ○筆者の「絵についての評価」と「絵巻物についての評価」を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項(説明文の組み立て【初め・中・終わり】段落・筆者の考え・図表やグラフ、絵、写真があるなど) ・筆者が『鳥獣戯画』の絵で着目しているところ ・絵についての評価 ・絵巻物についての評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が絵のどの部分を取り上げ、何に注目しているか、本文に線を引かせるなどして読み取らせる。 ・「絵」と「絵巻物」に対する評価が分かる叙述に、別々の色を使って線を引かせて、視覚的にとらえられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】③ ノート・ワークシート</p> <p>文章と図表などを結び付けて、必要な情報を見つけ、筆者のものの見方や考え方を的確に捉えているか確認する。</p> </div>
第二次	4	<ul style="list-style-type: none"> ○筆者の書き方の工夫を見つける観点を確認し、付箋(赤)に「論の展開」、付箋(黄色)に「表現の工夫」、付箋(青)に「絵の示し方の工夫」について気付いたことを書く。 ○同様の観点で並行読書の本の付箋を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の工夫を見つける観点(「論の展開の工夫」「表現の工夫」「絵の示し方の工夫」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の「鳥獣戯画」に対する評価や捉え方ではなく、その魅力の伝え方(書き方の工夫)に焦点を当て気付かせるように助言する。 ・筆者の表現の工夫や効果を付箋に色分けしてまとめることで、簡潔な文でまとめられるとともに、視覚的にとらえさせるようにする。

			<p>【思考・判断・表現】③ <u>ノート・付箋を貼ったワークシート</u> 文章と図表などを結び付けて、必要な情報を見つけ、筆者の伝えたいことと、絵などの資料の使い方や表現の工夫、論の進め方との関わりをとらえているか確認する。</p>
5 本時	<p>○付箋（赤）「論の展開」グループと、付箋（黄色）「表現の工夫」グループ、付箋（青）に「絵の示し方の工夫」グループの3グループに分かれて、筆者の工夫とその効果について話し合う。（話し合い①）</p> <p>○それぞれのグループから1名ずつの3人のグループに分かれて、筆者の工夫とその効果について話し合う。（話し合い②）</p> <p>○筆者の工夫とその効果をまとめ、交流して気付いたよさや自分のパンフレットに生かしたいことを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の工夫とその効果 ・教師自作のパンフレットの工夫とその効果 	<p>・話し合いを2回行うことで、話し合い①では自分の担当する内容を深めることができるため、話し合い②で自信をもって話し合いに参加できるようにしたい。</p> <p>【思考・判断・表現】③ <u>ノート・付箋を貼ったワークシート</u> 文章と図表などを結び付けて、必要な情報を見つけ、筆者の伝えたいことと、絵などの資料の使い方や表現の工夫、論の進め方との関わりをとらえているか確認する。</p>
6	<p>○「調べた情報の使い方」を読み、著作権への理解を深める。</p> <p>○並行読書で読み進めていた本の筆者の工夫とその効果について付箋にまとめる。</p> <p>○書いた付箋を整理し、筆者の工夫とその効果を交流する。</p> <p>○交流して気付いたよさや自分のパンフレットに生かしたいことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引用の仕方（文・図・写真） ・出典 ・調べた内容の記録の仕方 ・並行読書における筆者の工夫とその効果 	<p>・第1時の日本文化のテーマが決まった後、2～6時の間に関連図書を並行読書で読み進め、筆者の工夫とその効果について気付いたことを付箋にまとめていたものを読み返しながら付け加えさせるようにする。</p> <p>【知識・技能】① <u>ノート・付箋を貼ったワークシート</u> 読書に親しみ、読書によってものの見方や考え方を広げられることに気づいているか確認する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】① <u>活動の様子・付箋を貼ったワークシート</u> 日本文化に興味をもち、文章と図表を結び付けて必要な情報を読み取ることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって本を選んで読もうとしているか確認する。</p>

第三次	7	<ul style="list-style-type: none"> ○パンフレットの目次やページ数、内容をグループで話し合い、構成を決める。 ○それぞれの担当箇所の段組み、見出し、絵や写真などの紙面の構成を考え(割り付け)、前時までで調べたりないところを本やインターネットを用いて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の構成の仕方 ・割り付けの仕方 ・調べた内容の記録の仕方 ・情報の取捨選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成で一人一人の内容や分担を決めることで、調べ学習が明確なねらいのもとに行えるようにする。 ・工夫や効果についてまとめてきたものをもとに、割り付けを工夫させる。
	8・9・10	<ul style="list-style-type: none"> ○割り付けに沿って下書きをする。 ○下書きをグループで読み合い、記事の表現や内容を検討する。 ○下書きに沿って清書をし、表紙裏表紙などをも含めパンフレットを完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記事の表現や内容の工夫 ・図や写真の生かし方 ・清書の仕方 ・表紙（題名・目次・写真など） ・裏表紙（編集後記や参考にした資料の出典等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫や効果についてまとめてきたものをもとに、論の進め方や文章表現、絵や写真の示し方を工夫させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】②</p> <p><u>下書き</u></p> <p>引用したり、絵や写真などと文章の組み合わせを考えたりして、読み手に日本文化の魅力が伝わるように書き表し方を工夫しながらパンフレットを書いているか確認する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・表紙、裏表紙なども含め、グループ内で内容を確認し、パンフレットの表現の工夫を次時の交流で伝えられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】①</p> <p><u>下書き・パンフレット</u></p> <p>構成や表現を工夫して書き表すことに粘り強く取り組んで、パンフレットを作ろうとしているか確認する</p> </div>
第四次	11	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれのパンフレットに対する感想を、交流カードを用いて伝え合う。 ○単元の振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・振り返りの観点</p> <p>「この単元で学んだこと（表現の工夫）とパンフレット作りで生かしたこと」【知識・技能】</p> <p>「友だちのパンフレットの構成や表現で工夫されていると思ったところ」</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>「単元で学んだことは、絵や写真などを用いた文章を読んだり書いたりするときに何が生かせるか」【態度】</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流カードを使った交流の仕方 ・交流の観点 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの観点を示し、単元全体を振り返るようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】①</p> <p><u>活動の様子・交流カード</u></p> <p>学習を振り返り、これから日本文化にかかわる本を読んだり、絵や写真などを用いた文章を書いたりするときに生かしていこうとしているか確認する。</p> </div>

8 本時の学習指導 (本時5 / 11時)

(1) 目標

○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C (1) ウ

(2) 評価規準

○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点 ・ 評 価	時 間
1 本時のめあてをつかむ。	・ 本時の学習のめあて	○前時の学習を振り返る。 ○見通しを持って意欲的に臨めるように、本時の学習のめあてを提示する。	3
<p>筆者が自分の見方を読者に伝えるために、どのような工夫をしているか考えよう。</p>		○筆者は作品に対する自分の見方を伝えるために、どんな工夫をしているかを考えさせることで、見つけた表現の工夫を自分がパンフレットを書く時にも生かせるようにすることを助言する。	
2 付箋(赤)「論の展開」グループと、付箋(黄色)「表現の工夫」グループ、付箋(青)に「絵の示し方の工夫」グループの3グループに分かれて、筆者の工夫とその効果について話し合う。(話し合い①)	・ 筆者の工夫とその効果	○事前に自分の担当する付箋の内容を意見としてまとめておくことで、話し合い①で自信をもって伝えられるようにする。 ○自分の意見と比べて同じか違うか、また、どの部分が同じか違うか、それを聞いてどう思ったかを考えさせメモすることで、話し合い①で深まった意見を話し合い②で伝えられるようにする。	7
<p>〈期待される児童の反応〉</p> <p>①「論の展開」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漫画やアニメを例に説明 ・ 絵についての描写とそれに対する解釈・評価などを繰り返して「鳥獣戯画」の持つ価値を解説 <p>②「表現の工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 書き出し ・ 体言止め ・ 常体 ・ 短文によるリズム ・ 倒置法 ・ 語りかける書き方 <p>③「絵の示し方の工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵を2枚に分けて示し、その後全体(1枚)で示す 		○話し合いを2回行うことで、話し合い①では自分の担当する内容を深め、話し合い②で自信をもって話し合いに参加できるようにする。 ○自分で見つけた筆者の工夫とその効果だけでなく、話し合いを通して見つけた筆者の工夫とその効果を全体で共有することで、筆者が読者に伝えるために様々な工夫をしていることに気づかせるとともに、自分の言葉でまとめられるようにする。	

<p>3 各グループから1名ずつの3人のグループに分かれて、筆者の工夫とその効果について話し合う。(話し合い②)</p> <p>4 話し合い②で出た意見を発表する。</p> <p>5 筆者の工夫とその効果についてまとめ、教師自作のパンフレットから工夫を見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の工夫とその効果 ・友だちとの違いやよさ ・自分のパンフレットに生かしたいこと ・筆者の工夫とその効果 ・教師自作のパンフレットの工夫とその効果 	<p>〈評価規準〉</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>〈評価方法〉</p> <p>交流の様子や態度、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの観点の筆者の工夫とその効果や友達との考えのよさや違いに気付いている児童をBとする。 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 ・それぞれの意見をメモさせ、自分と同じかどこが違うかに着目して考えるように助言する。 	<p>10</p> <p>7</p> <p>10</p>
<p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容 ・友達と交流して気付いたこと ・パンフレット作りに生かしたいこと 	<p>○第1時で見せた教師が作成したパンフレットを再度見せて、筆者の工夫を生かして書いたものだと気づかせ、単元のゴールを意識させるとともに、自分がパンフレットに生かしたいことを考えやすいようにする。</p> <p>○板書を生かして本時の学習を思い出し、本時で何を学んだか、交流して気付いた友だちのよさ、パンフレット作りに生かしたいことなどを振り返ることができるようにする。</p>	<p>6</p>
<p>〈期待される児童の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②の書き出しの工夫では、「はっけよい、のこった」という掛け声から始まっていて、なんだろうと続きが気になるのもっと読みたくなる効果があると分かった。 ・③で絵を2枚に分けて示したという工夫は友だちと同じだったけど、私は最初アップで説明する効果があると考えたけど、友だちは後から全体が出るとストーリーが分かる効果があるといっていて違っていたのがおもしろかった。 ・1枚の写真でも分けて示したりアップにしたり伝えたいことに合わせて変えるとよいと分かったので、パンフレットでも生かしたいです。 ・友だちと交流して、同じ表現の工夫でも違う効果を見つけていてすごいと思いました。 ・表現の工夫で短い文で書くとリズムがいいと分かったので、自分のパンフレットでも生かしたいです。 			
<p>7 次時の学習について知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習内容 	<p>○学習計画を示し、次時では、「調べた情報の使い方」と、並行読書してきた本の筆者の工夫とその効果を付箋に書き、交流することを伝え、次時の学習の見通しをもたせる。</p> <p>○教師自作のパンフレットにも選んだ本の工夫があることを伝え、次時への意欲を高める。</p>	<p>2</p>

(4) 板書計画

表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう。
『鳥獣戯画』を読む 高畑 勲

めあて 筆者が自分の見方を読者に伝えるために、どのような工夫をして
いるか考えよう。

論の展開

表現の工夫

絵の示し方の工夫

授業の流れ

○話し合い①

論の展開

表現の工夫

絵の示し方の工夫のグループで話し合う。

○話し合い②

話し合い①で話し合ったことを別のグループの友達と交流する。

①筆者や先生の工夫と効果で自分のパンフレットに生かしたいこと

論の展開…絵についての描写とそれに対する解釈・評価などを繰り返して
『鳥獣戯画』の持つ価値を解説

表現の工夫…書き出し・体言止め・常体・短文によるリズム・倒置法・

語りかける書き方

絵の示し方の工夫…絵を2枚に分けて示し、その後全体(1枚)で示す

②友だちとの違いやよさなど気付いたこと

ふりかえり